



秋の色が日に日に濃くなっています  
あんなに暑かったのに…もうすぐ美しい紅葉の季節ですね。  
今年こそは何処かへのんびりと旅行したいと考えていますが  
なかなか時間が取れないので難しいかも。  
でもひとり吟行と称して、  
近場の自然を楽しむには時々かけています。  
俳句には本当に良い季節ですから。



さて今回もうさおさんと健さんの投句がありました。  
まず健さんの句から拝見しましょう。

合宿の一日終わる西瓜かな

合宿が終わって部員のみんなで西瓜を頬張っている、  
そんな景色が見えてきます。良い句ですね。一日をひとひと読ませて  
\*合宿の一日の終わり西瓜かな  
とされると西瓜にスポットがあたりますよ。

高く干す洗濯物や雲の峰



入道雲と高く干した洗濯物。取り合わせがすばらしいです。  
このままでも充分良い句なのですが  
切れ字をもっと効果的にするのなら雲の峰を峰雲として強い切れをもって  
来られてもより景色が鮮明になると思います。  
\*峰雲や高く干さるる洗濯物

昭和模すレトロの街の晩夏かな

最近昭和の・・・特に30年代のブームもあって、レトロな町を再現した催しな  
どがありますね。 模す・・・と説明しなくても読み手が感じてくれますよ。  
\*昭和てふレトロの街の晩夏かな  
健さん本当にお上手になられましたね。  
何気ない風景を上手に切り取って詠んでいらっしゃると思います。

続いてうさおさんの句です

雨止みてなお降り募るせみ時雨

この句と同じような意味の句を実は私も詠んでいます。  
(雨音の途切れればすぐ蝉時雨)  
雨に負けないように止むと待つて  
ましたとばかりに鳴き始める蝉を健気だな～  
と思ったのです。





このままで良い句だと思いますが、一ひねりするならば  
\*雨止めばここぞとばかり蝉時雨

#### 嫋嫋と腰定まらぬ青稻穂

雰囲気はとても良くわかります。  
上五にせつかく嫋嫋という言葉が使われているので  
中七を少し変更しましょう。

\*嫋嫋と風向く方へ青稻穂

#### 暑いとて泥鰯の寄りし柳影

泥鰯も暑い時には柳の木陰に集まるのでしょうか。暑いとて・・・と  
いう気持ちを読み手にわかってもらいましょう。

\*柳影に泥鰯かたまる残暑かな

#### 抜け殻の付きしカンナのもの侘し

空蝉でしょうか、花にしがみついた空蝉は特にもの寂しい感じですね。  
ただ、悲しいとか寂しいとか侘しいとかは読み手に感じてもらうものなので  
読み込んでしまわない方が良いでしょう。

\*空蝉を付けてカンナの花燃える

\*抜け殻を付けてカンナの憂いかな

うさおさんも身近なものに視点をあてて上手く俳句に取り組んでいらっしゃいますね。  
俳句を通して自然を見ると、何となく視野が広がったような気がしませんか？  
きつともっともっと上手になれるだろうな・・・と毎回楽しみにしています。

秋から冬へ季節は移ります。

そしてその季節はほんとうに情緒ある美しい季節です。

次号も皆さんの投句お待ちしております。

福耳の小さきピアス秋の声

どこまでも故郷の海月の秋

ゆうこ

